

『國學院大學経済学研究』執筆要綱

I. 原稿体裁

1. 表紙部分には以下の情報を記す。
 - (1)原稿の種類
 - (2)タイトル(タイトル全体は「」で囲まない。タイトル中の特定の術語にカッコ付けが必要な場合のみ適切なカッコを使用する。副題には先頭に全角ダミー「一」を付ける。副題末尾には付けない。)
 - (3)著者名・所属機関
 - (4)連絡先(電話・電子メールアドレス等)
2. 2 ページ目には 400～600 字程度の要約を書く。
また、論文内容に関係の深い 5 つのキーワードをつける。
3. 3 ページ目には再度タイトルを書き、目次を記す。目次末尾で改ページとする。
4. その後に本文を続ける。
5. 文体は「・・・である」文体とする。
6. 送り仮名は内閣告示の本則とする。
7. 使用漢字は、常用漢字の範囲内とする。但し、歴史的・学術的術後は例外とする。読みの難しいものにはルビ振り、または、「具(つぶさ)に」形式の読み挿入を認める。
8. 和文の句読点は、「、」「。」とする。「,」「.」は不可。
9. 原稿の本文書体は明朝体とする。
10. 接続詞や接続詞に類するものは、ひらがな書きとする。(しかし、したがって、すなわち等)
11. カタカナ語表記は、『コンサイスカタカナ語辞典』(三省堂)に準拠する。
12. 横書きにおいては、数量・順序などを表す数字はすべて算用数字とする。
第 1 章、第 3 項、第 4 次、1 月(ひとつき)、10 日、切り身 1 切れ
13. 縦書きにおいては、数量・順序などを表す数字はすべて漢数字を使用する。
14. 省略を表す三点リーダーは全角 2 文字分とする。「…」を使用する。
15. 欧文は半角を使用する。NPO 等の省略語も半角とする。
16. 欧文はセリフ体(Times, Century 等)を使用すること。
17. 欧文省略リーダーも全角 2 文字分とする。「...」を使用する。

II. 見出し表記・注記・図表・参考文献・引用表記の指示

- 1 見出しは、ローマ数字・アラビア数字・漢数字や適切なカッコ付け等で分類しながら論文全体で統一すること。
例示: 第 I 章→第 1 節→第(1)項→第①欄
第一章→第一節→第(一)頁→第㊦欄

- 2 注記はすべて論文末に置き、論文全体を通じての通し番号とする。横書きの場合は注記挿入場所に算用数字で(1)等の形式で上付き文字、縦書きの場合は漢数字で(一)等の形式で右寄せ文字として挿入する。

例示： 國學院太郎は國學院神殿に参拝した⁽¹⁾。

- 3 図表は論文全体を通じての通し番号を付するか、 章番号と図表番号の組み合わせのいずれかで統一すること。

通し番号の場合

例示 第1図、第2図、・・・・・・第15図等
第1表、第2表、・・・・・・第15表

章番号との組み合わせの場合

例示 第1章の第1図は、 第1-1図
第1章の第1表は、 第1-1表 等。

- 4 参考文献は論文末に通し番号を付して、邦語・外国語別に分けて掲げること。附番に使用するカッコは()または[]とし論文全体で統一すること。

- 5 参考文献掲載の体裁の例示

(1) 著書の場合は、著者名『書名』、発行所、発行年月、ページ(必要な場合)

[12] 國學院次郎 『オノゴロ島の出来事』、親和書房、2009年8月、15-19頁。

[15] 中泉真樹・鴫田忠彦著 『ミクロ経済学 理論と応用』、東洋経済新報社、2000年5月。

外国語の場合、著者名、論文名、発行所、発行年月、ページ(必要な場合)

[35] Siegel, R. D., *Futures Markets*, The Dryden Press, 1990, pp.15-19.

(2) 論文の場合は、著者名「論文名」、『掲載誌』、発行所、発行年月、ページ。

[7] 植田和男 「流動性の罫と金融政策」、『金融経済研究』 第18号、金融学会編、2002年3月、pp1-10。

[15] Friedman, M. , “A Monetary Theory of Nominal Income,” *Journal of Political Economy*, March/April, 1971, pp.17-35.

- 6 掲載順序は、邦語の場合は著者の五十音順、年代の古いもの順とする。共著の場合は筆頭著者の五十音順とする。外国語の場合は、著者のファミリーネームのアルファベット順、年代の古い順とする。

- 7 注記内での参考文献の引用方法は、著者名[参考文献番号]とする。

例示： 中泉真樹・鴫田忠彦[15]、19 ページ(必要な場合)。

Friedman, M. [15], pp.51.

*前掲書、同書、*ibid.* (*ibidem*)や、*op.cit.*は使わない。

Ⅲ. 使用ソフトと書式

1. 執筆には、ワープロソフトを使うこと。
2. 横書は A4 判用紙に、12 ポイント以上のフォントサイズで 40 字×30 行とすること。
3. 縦書は A4 判用紙に、12 ポイント以上のフォントサイズで 40 字×20 行と

すること。

4. 添付するデジタル原稿のファイル形式は、印刷所で取扱可能な形式とすること。

IV. 締切について

締切の取り扱いは、当該号の編集責任者の判断に従うこと。

V. 本執筆要綱の改廃

本誌編集委員会の提議により、経済学研究科委員会の審議により改廃の決定を行う。ただし、『國學院経済学』の執筆要綱が改正された場合は、本執筆要綱の改正もそれに準ずるものとする。

附則

本執筆要綱(内規)は、平成 24 年 6 月 27 日に制定し、当日より適用する。

以 上

大学院経済学研究科紀要編集委員会